

ラジオママネット～ママトーク

第6回放送の概要（2017年9月23日）

（トークメンバー）

あっちゃん：50代、20代の子ども2人。ママネットでは、算数教室はじめてのおけいこの指導員。

さおりん：30代後半、6歳、4歳の2人の男の子。ママネットはサロンドマルシェでキッズクッキングの先生、管理栄養士。

ちおん：30代前半、2歳の男の子。ママネットは月2回ベビーマッサージ教室担当。保育士をしている。

あきねえ：40代、中一、小4、1歳半。ママネットでは赤ちゃんから小学校まで子育て支援の企画運営。

まきちゃん：40歳、小6（女）、小4（男）、小1（女）。ママネットは婦人会館HPの運営管理、神戸ママネット通信の発行をしているワーキングラボのメンバー、子どもパソコンクラブの講師。

本日のテーマは、「理想の育休とは」です。

赤ちゃんを産むための休養としての産前・産後の「産休」という制度がありますが、それに続いて必要になってくるのが育児休暇（育児休業）です。

家庭生活と仕事を上手に両立するための、現在の育児休暇の仕組みはどうなっているのか？

ママのニーズに沿ったものなのか？

子育てを経験してきたママ目線からの理想の育休について、

トークしたいと思います。

（1）産休と育休について整理すると、

①産休（産前・産後休業）とは

産休として休む事が出来る期間は出産予定日の6週間前から、出産日の8週間後まで。

しかしこれはあくまでも”休める期間”であって、必ず休まなければならないのは産後の6週間に限定されています。

従って本人が希望すれば、出産の直前まで働いて、出産後6週間経った時点ですぐに仕事復帰！という事も可能です。

ただし、産後6週間が経っていない労働者を就業させると、会社側の違法行為となります。

②休んでいる間の給料は？

産前・産後の休業期間については法律上給料支払いの義務付けがありません。

つまり休んでいる間の扱いはそれぞれの会社の判断に任されているのです。

会社の健康保険に加入していてきちんと保険料を納めていれば、休業中も通常収入の6割程度の出産手当金が支給されます。

③育児休業はどれくらい取れる？

育児休業の取れる期間は、子供が生まれた日から1年間。正確には出産から子供が満1歳になる誕生日の前日までの1年間となります。

④育児休業は誰でも取れるの？

育児休業を取る事が出来るのは原則として常用雇用、つまり正社員の労働者や長期間同じ会社で働いている契約社員、派遣社員、パートタイムの労働者です。

だから短期の契約で仕事をしている人など、休業中に労働契約が切れる場合は対象になりません。

⑤休んでいる間のお給料は？

育児休業の間についても会社には給料支払いの義務がありません。産前・産後休暇と同じように、休んでいる間の扱いはそれぞれの会社の判断に任されているのです。

しかし、給料が支払われない場合や大幅に減給されてしまう場合は、雇用保険から給料の30%程度に相当する育児休業給付金を受け取る事が出来ます。

(2) 現状の制度のふまえて思うこと

- 育休をとったことがあるかについて、まきちゃんは育休をとる選択をしていない。休んで給料貰って育児してます、という後ろめたさがぬぐえないと思ったので、それなら変に会社に引っ張られるより、すっぱり辞めて自分の好きなように育児に専念したい、お金のある範囲で節約してやる方がいい、人の眼を気にしながら、会社に気を遣いながら子育てしたくない、どっぴり育児をしたいと思った。
- あきねえは、自分達で作った会社で20代から30代の10年間は仕事しかしていなかった、30になって1番目の中一の子が生まれた12~13年前に、保育所に預ける所があればいつでも仕事に復帰してねという感じてあったが、生まれた子どもの顔を見た瞬間、今までクライアントに尽くしてきたが、将来何も残らないと感じ、子どもを抱いて顔を見た瞬間子どもに尽くすと決め、仕事を辞めた。
- ちおんさんは、あきねえと似た感じで、独身で保育園で働いている時に先輩の保育士が産休、育休をとり、復帰してバタバタしながら、預かっている子どもを一生懸命看ている姿を見て思ったことがある。自分の子どもを看ていても、戻らなければならない場所があるから、家事と育児をこなし、人の子の命を守らなければならないという現実、市内の保育園は同じ日に運動会があるので、我が子の運動会を一度もみれず子どもが卒園した人、そのような状況を見て葛藤があった。2年3年育休をとれば同じくらい働いて下さいという暗黙のルールがあり、それに自分の心が追いついていけず、自分の家庭、子どもを犠牲にしてまでやるのかということで辞める先生が多い。その結果入れ替わりの多い時代があり、園側も働きやすい環境に変えなければという動きもあったが、それは理想で、毎日の業務をこなすのは大変である。
- 安心して自分の子どもを育てたいが、戻る場所があるから、いつか戻らなければいけないと感じ、しかし自分の子どもを犠牲にしてまで子育てしなければならないのか（まきちゃん）。
- 保育士さんの友達は復帰している人は非常に少ない。仕事が大変過ぎて我が子をおいて何で人の子を看るのかと思っている。子どもの行っている保育園の先生は、若い主任クラスの年配で中間層がない。中間層がないと若い層が増え、経験不足による対応の問題がでてくる（さおりん）。
- 10年休むと復帰は難しいとしても、子どもが成長する10年は関わっていたい期間である。1年間の育休は短いと思い、幼稚園に入るまでの3、4年は、どっぴり子どもの我がまを聞いてあげる期間にしたい（まきちゃん）。

- 1年で母乳も卒業し歩くようになるが、1年という期間は、我が子を見ていたいという母親の感情は全く考慮されていない。1年は他人でも見れる状態に成長したというだけである。1歳になっても歩いていない子どももいるので個人差が大きい。母乳を1歳で離すのは無理やりである。年寄は1歳になるとおむつを取らないと、と言い出す。1歳になると子どもを他人に看てもらえる状態と思われるのが問題。復帰するカウントダウンが始まると、必死に断乳をし始める。1歳未満の断乳は、おっぱいに執着がないとか食欲が旺盛とかいう子どもはいいとしても、ただ単に栄養補給の授乳ではなく、それはスキンシップになり、断たれることは赤ちゃんの精神的ダメージになる。
- ちおんさんの友達は、復帰前から計算して断乳をはじめ、断乳1週間ほど子どもに熱がすぐ続き、病院に行っても風邪でもなく発熱だけで、2、3軒病院に行き断乳ショックと言われ、母親はショックでパニック、再度1から計画的に始めるように言われた。親が自分の都合でやるものではなく、子どもの様子に合わせてやるようにと言われた。その親は子どもに好きなだけ飲ませ触らせ、徐々にあと何日経ったらおっぱいバイバイだよと毎日念じながら過ごし、徐々に断乳を進めていくことができた。
- 乳児の育児は楽しい事より辛い事の方が多い。まきちゃんはもう0歳児はいらないと思うくらい地獄と思ったことがあった。そこで無理に離して、一番かわいくなってくるころを他人に預けるのはつらい。
- 断乳ショックになる子は保育所もいやがるのではないかと。預かる側も、お母さんもうちょっと子どもの声を聞いてあげてと思うことがある。子どもを見ているとせつなくなる。でも仕事に行かなければいけないお母さんの後ろ姿が辛い。お母さんは疲れ、しかし子どもは会うと甘えたい、駄々をこねたい、一方お母さんは私の言う事を聞いてと思うので歯車がどんどんずれてくる(ちおんさん)。
- 最近のママは預けて働くのが当たり前で思っていて、働かないといけいない人もいるが、選べる状態の人もいるはずなので、預ける方にあわしていかないといけないというのではなく、子どもを看っていていいと考えてほしい。会社に戻れないという怖さを優先したり、社会に置いていかれる不安から、預ける方を選んでしまっているのはもったいない気がする。
- 昔は終身雇用で休んではいけないという状況であったが、今はパートタイムで働ける企業が増え、働き方がさらに変わってきたら考え方が変わるのではと思う。社会がどのように変わってほしいかについては、1年とは決めずに自由に自分が働きに出たいと思ったら、そこに受け皿があることが大事。皆が一緒ということではなく、子どもをずっと看ているのではなく働きたい人もいれば、どっぷり育児をしたいので、もう少し休みたいという人の想いが通じる社会が望まれる。
- 産休中の代替りの保育士さんは、任期が決まった臨時職員が入ってくる。育児休業中も、会社からがんがん電話がかかってくると聞いたが、会社と繋がっている以上、育児しながらも会社には求められ続け、頭が一杯になってしまう状況と思う。

限られた時間でしたがそれぞれが同じ時代を生きながら、多様な価値感で自分と周りの人たちの心が満たされるように精いっぱい過ごしていることがわかりました。これからも助けあっていきましょう。今後もママトークでは更に掘り下げてトークしていきますのでお楽しみに。

(本日の感想)

あっちゃん：育児休業の期間1年は子どものためには短い。歩き始めて一番かわいい時期に保育所に預けるママの後ろ髪を引かれる想いを感じる。

さおりん：3年間育休をとれるところもあるが、1年で復帰している。3年もたつと浦島太郎状態になるとして企業側がポジションの問題があるとしているので、不安になり復帰せざるを得ない。期間を伸ばすだけでなく企業側の在宅勤務などの工夫が必要ではないか。

ちおんさん：3歳までの3年間はたくさん親子で関わってほしい。3歳までしっかり愛情をもらおうとその後は自信を持って前に進む力が子どもにつく。そのような子どもがたくさん育つと社会も変わると思う。そのような明るい社会を作るためにも、小さい時期にしっかり子育てに専念してもらえ環境を、社会が作っていく必要がある。

あきねえ：この声が色んな制度を作る男性に届いてほしい。

まぎちゃん：3つ子の魂100までというように、今の保育士ちおんさんの言葉を聞いて、真理がそこにあるように思いました。

以上